

当事者の思い①

当事者が
暮らしの場や養育者がかわる前に
「して欲しいこと」
「して欲しくないこと」

- I. 移行期の理由説明
- II. ポジティブなお別れ
- III. 養育者の批判
- IV. 養育者の情報共有
- V. 過去の振り返り
- VI. 将来の展望
- VII. その他

「当事者の思い」は、当事者からいただいたご意見を原文のまま掲載しています。

ここしか空いていないからと言われた。
何の説明もなかった。

(養護施設から児童自立支援施設に移るときに) 施設の職員が児相に行ったところで帰った。やっかい払いされたと思った。

I. 移行期の理由説明

あなたは「行くところがない」と言わないで欲しい。

言われてすぐ納得できるわけがない。時間をかけて。

移行する理由をわかるように伝えて欲しい。

パーティー

ポジティブに思える
さよならを！！

退園に向けて、担当と
一緒に片づけをしたい。

Ⅱ. ポジティブなお別れ

動機付けを丁寧にする。
モチベーションを維持する。

困ったときの連絡先の確認。
施設ができること、できない
ことを明確に伝える。

わかるための時間が
欲しかった。

次に移る施設（家）の批判、否定。
（して欲しくない）

嘘の情報でなく、確実に本当の情報を教えてもらいたかった。

Ⅲ. 養育者の批判

次の生活の場での見通しを持たせる。

不安を少なくする努力をもう少ししてほしい。

行き先の生活を体験させてもらってから決めたかった。

次の施設の情報提供。
見学。

IV. 養育者の情報共有

次の施設（自宅）で関わってくれる大人を含めた話し合い。目標の確認。

次の施設での生活について話をしてくれた。
（良かった）

次の養育者の情報が欲しい。今の養育者から聞いておくことで（大人の視点でかまわない）安心する。

退園で関係が途切れる
わけではないこと、大切
に思う気持ちは消えな
いことを感じてもらう。

子どもが育ってきた歴史
を子どもと一緒に振り返
ること。

V. 過去の振り返り

班の先生と良い思い出が
あったこと。(良かった)

在園中の写真が欲しい。

担当と思い出に残ることをした
い。(出かける、パーティーなど)

この施設で成長したこと、残っている課題、今後起こりうることを話し合う。

VI. 将来の展望

退園後の暗い見立てを話す。

新しい生活が始まった後も関わり過ぎる。

説明を分かりやすく！ねばりづよく！

子どもは担当や養育者の変更は「自分が悪いからだ」と感じてしまう。そうでないなら、はっきりと担当から事前に理由を言ってほしい。

VII. その他

当園で取り組んだことのプラスの評価（頑張ったことへの労い）

「次の養育者に頼んでごらん、聞いてみて」と言わない。あなただから言ったんです。

なるべく多くの会話。

常に「子どもは」を主語にして欲しい。